

どの医者からも手術を断られた王瑪麗ちゃんが最後にたどりついたのが、北京鉄路病院の小児科におられた宗像先生の所だったのです。

宗像先生も同様この手術には躊躇しました。が、放っておいたら死になります。先生は一大決心をしました。

局部麻酔でやろう。局部麻酔で開腹手術をして、腸の中にある金属の鍵を長い時間かけて手でもみだしたのだそうです。瑪麗ちゃんは一週間して退院しました。今から46年前のことです。

王瑪麗ちゃんは生まれて七ヶ月のとき
どうしたばずみか金属の鍵をのみこんで
しました。



勝林寺寺報

宗像先生は敗戦後すぐに日本に引き揚げました。いま、東京の国立市でやはり小児科の病院長をなさっています。
瑪麗ちゃん一家も早く北京をはなれてモンゴルに帰って育ちました。今はそのモンゴルで先生をしています。

才。宗像先生は79才。王瑪麗さんは47

この一人が四十六年ぶりに再会したというのです。二人は互いに手をとりあって、そして瑪麗さんは片言のような日本語で「アリガトウゴザイマス」と言いました。すると宗像先生も「小児科の医者をしていてよかつたアリガトウ」と言つたそうです。

モンゴルと東京とは遠く隔たつていま
す。民族も違います。ことばももちろん
違う二人が。しかも四十六年という長い
年月をへだてたこのふたりが、しかし、
「アリガトウ」という一つのことばのな
かで素晴らしい出会いができたのです。

瑪麗ちゃんを育てるあいだそのおとうさんとお母さんは、毎日のように宗像先生の話を聞かせ、「人は生きているのではない、生かされているのだ」ということを教えたというのです。

わたしのいのちを支え育てた無量百千のご縁ご恩に生かされていることにめざめるなかで、どんなに処をへだて時を隔てた人とも、ほんとうの出会いができるのではないか。」

『仏説阿弥陀経』というお経には、阿弥陀さまのおはたらき、お釈迦さまのおすすめ、それから十方世界のたくさんのお如来さまのお護りのなかで、アリガトウアリガトウと、だれもだれもが隔てなく、俱（とも）に一つ処に出会わせていただける世界、それが『お浄土』なのだよと説いてあります。

本堂廊下
天井張り替え完了
長年の懸案でありました天井はりかえ
のことについて、今年度の代議員会で決
議されたとおり基本財産支出工事として
岸下建設に施工していただき、お盆まえ
に見事な完成をみました。

彼岸会 (ひがんえ)
26日 (水) PM2時
愛すれば 愛するだけ
出会えない 愛別離苦
わたしの いのちの ゆくえ
いのちの でいの かのきし
お彼岸会で問うてみましょう

九月のこよみ

十一日	出石組総代研修会（西宗寺）
十二日	坊守会・同朋講座（正福寺）
十三日	教区諸会議
十四日	『れんけん』発行
十五日	瑞泉寺四百五十回慶讃法要
十六日	中島明美氏宅法事
十七日	仏壮大但地区研修会（篠山）

十五日	成田幹雄氏宅法事
十六日	福岡行橋市伝因寺彼岸会
十七日	同じ
十八日	同じ
二十九日	結集大会実行委員会（柏原）
三十日	善立寺彼岸会法座
三十一日	永井角治氏宅法事
三十二日	真覚寺彼岸会法座
三十三日	二十六日
二十四日	「みのり」を聞く
二十五日	徳山川△云法座

△五
一十八日 結集大会理事会会
三十日 出石組連研 (専用会)
教化団体基推委員会

呑むもとはしるとも
(何事もよく噛みしめ味わうことを教
えるべきで、鶉呑みにすることを教
えてはならない)

勝林寺 079652-3083

勝林寺テレホン法話 ☎079652-5800

祖先供養といふこと

「盆」という言葉の元は、ウランバーナといふイングの古いことばです。中国でこのことばを「倒懸」と訳したのは、ウランバーナの意味が「逆さにぶらさがつているような苦しさ」と言うことだからです。

地獄や餓鬼のとてつもない苦しみを言い表したことばがウランバーナ、お盆です。そしてこのことばの出来立ち・由来を説明したお経が『盂蘭盆經』です。

目蓮という人は、お釈迦さまの弟子のかでも神通力にかけては一番の優れた人物でした。自蓮が神通力を身につけたとき、なにをおいても一番に知りたかったのは亡くなつた自分の父母の行方です。彼はさっそく神通力をつかって方々の世界を捜してみました。結果、かれの母が餓鬼道(餓鬼の世界)にいることがわかりました。

餓鬼の母を救うため、目蓮は供養(サビス)の食べ物をささげるのですが、母か、その供養の食べ物を口に入れようとすると、それはたちまち火となつて、かえつて母の身を焼き苦しめるばかりです。

あまりのことに目蓮は、お釈迦様のところにお願いにゆきました。お釈迦様はその目蓮に対し次のことをお諭しになります。

まず、どんなに懸命に供養に励んでも、目蓮ひとりの力で救えるわけはない。母の罪はそれほど重いのだ。母は、子供を育てるために、「私の子供にだけは」という思いのなかで貪欲のところをおこし眞恚愚痴のところをおこ

して、そのなかで子を育てるのである。私は、「ほかの人はともかく我が母だけは」という思いで供養し救おうとしている上塗りに過ぎないではないか。

お釈迦様は目蓮に教えなさるのです。

「七生の父母と現在の父母とに供養しなさい。それから今日は自恣(夏季戒)

修会(安居)の最終日(総反省の日)」。

たくさんの僧たちが集まる。そのすべての人々へ供養しなさい。

「七生」というのは「すべての父母」

私に都合のいい祖先だけに供養するのではなく、また私をかわいがつてくれた母だけを思うのではなく、すべての父母すべての祖先を供養すべきである。

ということは、いつたいどういう事でしょうか。

人には無量の祖先があるはずです。無

数の父母があるのだと仏法では説いています。

それら無数無量のご恩に供養せよと言

うのです。すくなくとも我身勝手な我執から、祖先を選り好みしたり父母を選別したりしてはならないと戒めているのです。

目蓮はお釈迦さまのおしえの通り七生の父母と現在の父母、それから僧大衆にたいして心からの供養をしました。

どんな供養をしたのでしょうか。
具体的なことはなにも分かりません
がしかし、はつきり分かることは、供養をしながら目蓮は、実はこの私が、あの母と同じように無量百千の祖先や父母からの供養の中で育てられ支えられていくのちであつたのだと、いわば無量の

『盂蘭盆經』は最後に、目蓮の母も、また目蓮もみな共にすぐわれたと告げています。

お盆のことをまた「歓喜会(かんぎ)

会(え)」(おおきないのちのなかで共に出会えたことをよろこぶ会)と言つてありますし、今に伝わる盆踊りは何かそうしたよろこびを表しているようにも思えるではありませんか。

子供研修会



八月二十一日

（盆踊り）

（盆踊り）